

～行政視察に行ってきました～

総務常任委員会

視察日

8月21日～22日

視察先

- ①三重県伊賀市役所
- ②大阪府八尾市役所

参加者

依光美代子 森田雄介
小松 孝 爲近初男
山崎龍太郎 島岡信彦
村田珠美（広報委員会
会部会長）

産業建設常任委員会

視察日

7月29日～31日

視察先

- ①クボタ環境サービス(株)
上下水道課
- ②石川県かほく市役所
- ③福井県あわら市役所
観光振興課
- ④福井県あわら市
市長表敬訪問

参加者

甲藤邦廣 山崎晃子
萩野義和 笹岡 優
小松紀夫

教育厚生常任委員会

視察日

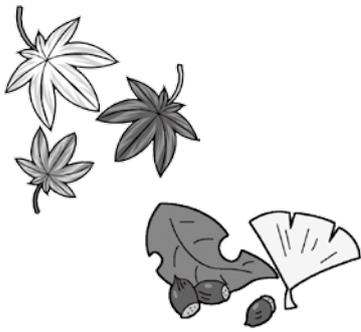
8月6日～7日

視察先

- ①島根県益田市役所健康
増進課
- ②島根県益田市の益田地
域医療センター医師会
病院

参加者

濱田百合子 山口 学
村田珠美 舟谷千幸
久保和昭 大岸眞弓
山本芳男



※各委員会の視察内容は次の通りです

総務常任委員会

伊賀市役所

●移住・定住のための

伊賀流空き家バンク事業

人口減少による空き家が増えることは、仕方がないとせず、移住促進するための現状調査を行い、その分析を生かした専門家（建築士事務所協会・司法書士会・不動産鑑定士協会・宅建建物取引業協会）等によるワンストップサポートの支援体制を関係組織と連携し確立している。

①空家等対策推進包括連携協定

②移住・定住の推進に向けた包括連携協定

③歴史的資源を活用した地域活性化に向けた業務連携に関する協定書

また、「空き家バンク物件情報誌」を毎月発行している。本市も専門家との連携体制の構築、農地緩和処置ができれば、移住定住促進等に向けて大きな力となる。



八尾市役所

●高校生とのコラボによる
議会広報の取り組み

議会広報は、市政だよりと合冊で発行している。

平成28年9月から市内5校の高校生が発表の場として表紙を担当している。特集記事も掲載して「伝える誌面づくりから伝わる誌面づくりへ」を目指している。

内容も市民の生活に身近な記事を中心とし、言葉の表現などの工夫をしている。質問や報告等もQRコードで閲覧できるシステムとなっている。

教育厚生常任委員会

益田市健康増進課

●健康増進事業の推進と地域医療を守る取り組み

「健康ますだ21計画」を10年計画で取り組んでいる。推進協議会は行政、20地区健康づくりの会、医師会、小中学校PTA等28団体で構成。

4つの専門部会（食生活・運動・歯科・心の健康）を10年間でローテーションを組み、振り返り評価して活動につなげている。特定健診受診率も年々上昇し、取り組みの効果が出ている。

益田市議会は、深刻な医師不足で救急医療体制が危機的状況になり、平成20年に地域医療対策特別委員会を設置した。また、平成23年6月に「益田市地域医療推進条例」を制定。

医師確保のため、医師への感謝を伝える事業や、子供たちと医学生、看護学生とのふれあい事業も行っている。



益田地域医療センター 医師会病院

●地域医療・介護の連携

昭和61年に「益田医師会の事業を有効活用し、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続するための地域包括ケア体制を構築する」との理念のもとで開設。

地域医療介護連携統括部の下に、地域連携室、医療介護相談室、地域包括支援センターの3部門を設置し、情報の一元化を図り、受診、入院、入所などに関わる相談をワンストップで行っている。

産業建設常任委員会

かほく市上下水道課

●上下水道施設の包括的民間委託について

経営する上下水道事業は、水道事業3地区、公共下水道地区2カ所、農業集落排水事業15カ所。普及率は共に99%に達している。

上下水道事業は平成22年から令和4年まで、3期に分けて包括的民間委託の取り組みが実施されている。

1期目の実績、反省点を踏まえて2期目、3期目と移行している。

外部委託の目的は全国自治体職員の減と、財政上の問題に対応するものである。市民サービスの低下を招かないように、留意が必要だと感じた。本市との条件の違いはあるものの、先行事例として参考にすべき点は多くあった。

あわらし市観光振興課

●観光振興戦略について

令和4年度の北陸新幹線敦賀延伸を踏まえ、福井県の北の玄関口として策定した。

特筆すべきは、市長によるトップダウンの施策である。市内129の集落全てを1班4〜5人体制でJA・社会福祉協議会とともに訪問し、各集落の現状と、課題を市職員が責任を持って聞き取り、計画作成している。このことは、市職員がやりがいをもって積極的に行動することにつながる。



クボタ環境サービス(株)にて